

山岸 高 旺*: 淡路島産フシナシミドロ属

Takaaki YAMAGISHI*: *Vaucheria* from Isl. Awaji, Japan

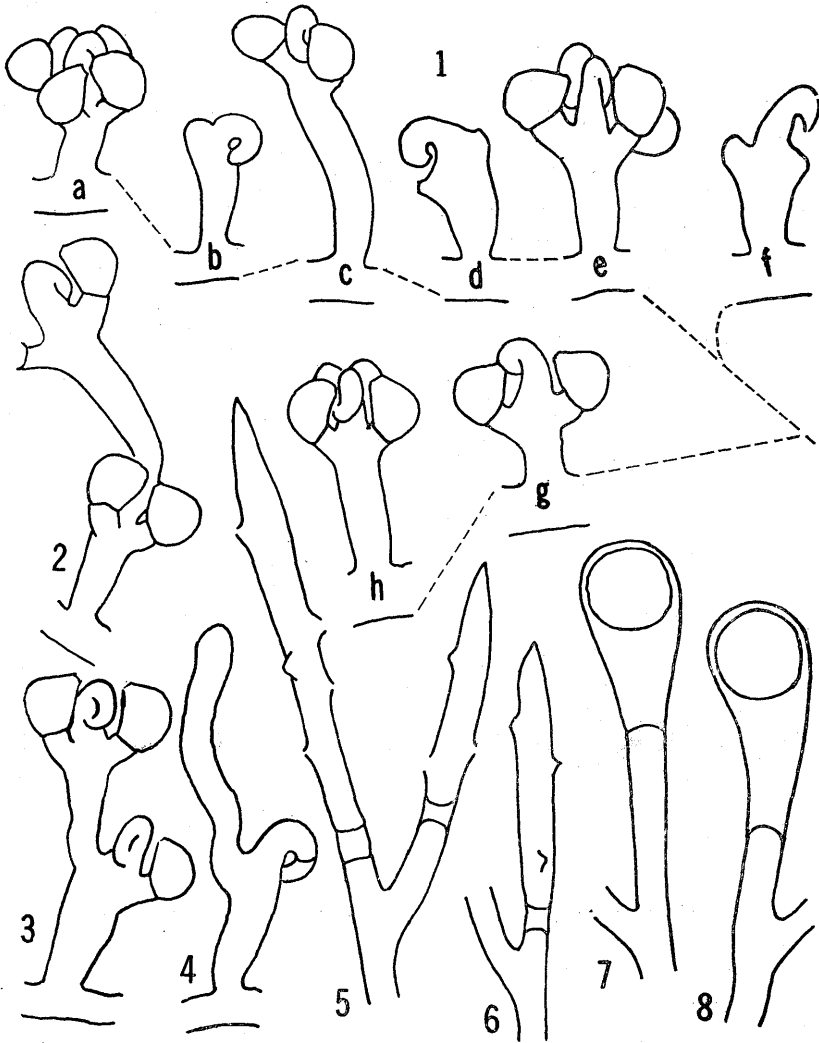
筆者は、先に淡路島から採集した淡水産緑藻類について報告したが(山岸, 1962), ここでは同じく 1959 年 3 月に同島各地から採集したフシナシミドロ属 6 種 1 変種について、それぞれの採集地、及び持筆すべき観察事項を記す。採集地は()内に記したが、この中 *V. longicaulis* 以外の各種は、いずれも水田、又は水溝、湿土上などから採集されたものである。

1. *Vaucheria aversa* Hassall (宇山, 上田, 南淡)
2. *V. geminata* (Vauch.) de Candolle (宇山, 賀集, 塩谷, 南淡, 湊, 上田)
- 2'. var. *verticillata* (Kütz.) Rabenhorst (宇山, 湊)
3. *V. hamata* (Vauch.) de Candolle (湊, 宇山)
4. *V. longicaulis* Hoppaugh (塩谷)
5. *V. nicholsii* Brown (賀集)
6. *V. sessilis* de Candolle (湊, 三原)

V. geminata は島内各地から採集されたが、その中で、賀集、及び上田から採集した材料では、子実枝の長さ、及び子実枝上に生ずる生卵器数に著しい変異性がみられたので、糸状体をほぐして、1 本の糸状体、又はそれから枝分かれした糸状体上に接近して並んでいるものをしらべてみた。図 1 はその例(糸状体上に着いている各子実枝の間隔は必ずしも同じではないが、適当につめて並べ、子実枝の伸びている方向も図では一方にそろえた。点線は糸状体のつながり、枝分れを示す)であるが、これからても、この種では同一の糸状体上に生ずる子実枝でも、その長さや、その上に生ずる生卵器数は著しく変化しやすいものであるといえる。

図 2—4 は、数箇所からの材料中に見られた生殖器官の芽生(proliferation)である。図 2 は造精器から、図 3 は生卵器からそれぞれ子実枝が二次的に芽生したものである。この様に子実枝が芽生して階段状の形になったものは、フシナシミドロ属では普通に見られるもので、この種の他に *V. hamata*, *V. terrestris*, *V. arrhyncha* などでも多くの報告がなされている。しかし、図 4 の様に、生殖器官から普通の糸状体が伸びるのは、極めて稀であるらしく、*V. jonesii* で生卵器の先端から (Prescott, 1938), *V. longicaulis* で生卵器の基部から (Taylor, 1952), それぞれ糸状体が伸びていた例が報告されているのと、培養中の *V. sessilis* で生卵器が糸状体に変化したことが観察されている (League & Greulack, 1955) くらいである。

* 東京教育大学理学部植物学教室。Botanical Institute, Faculty of Science, Tokyo Kyoiku University (Tokyo University of Education), Tokyo.



Figs. 1-4. *Vaucheria geminata* (ca. $\times 100$). 1 (a-h). Reproductive organs arranged on the same filament. 2-4. Proliferation of reproductive organ. Figs. 5-8. *V. longicaulis* (ca. $\times 100$). 5-6. Antheridia. 7-8. Oogonia.

V. longicaulis は塩谷の海岸近くにある小さな沼から採集された。藻体や生殖器官の大きさなどの形質は Hoppaugh (1930) や Taylor (1952) の観察している種や、筆者に

よって下田から報告(山岸, 1959)されたものとよく一致するが, 造精器の側突起は Hoppaugh の原記載(5—12 個)の様に多いものはみられず, 3—5 個が普通であった。この種は原記載地(Hoppaugh, 1930; Taylor, 1952), 及び日本で知られている下田(山岸, 1959), 及び博多(瀬川・太田, 1951)ともに海水域から採集されているが, 今回の材料は塩田跡の沼から採集されたもので, その沼から同時に採集されている他の藻類の種類から推定すると, この沼はおそらく汽水であつたらうと思はれる。

御指導を頂いた東京教育大学印東弘文教授および伊藤洋教授に対し, 又現地でご世話になった兵庫県三原郡南淡町榎賀正臣氏に感謝する。

Résumé

Seven forms of *Vaucheria* collected from Awaji island were reported. In *V. geminata*, variability of both length of fruiting branch and number of oogonia per fruiting branch arranged on the same filament were examined. Also, in this species the proliferation of reproductive organ was observed. Although *V. longicaulis* had hitherto been reported only from the marine habitats, it was here collected in a small marsh situated near the seaboard. Other algae accompanied with this species suggested that probably the marsh was of blakish water.

引用文献

- Hoppaugh, K.: Amer. Journ. Bot. **17**: 332 (1930). League, E.A. & V.A. Greulach: Bot. Gaz. **117**: 45 (1955). Prescott, G.W.: Trans. Amer. Micros. Soc. **57**: 4 (1938). 瀬川・太田: Sci. Bull. Fac. Agr. Khushu Univ. **13**: 282 (1951). Taylor, W.R.: Madrono **11**: 274 (1952). 山岸高旺: Journ. Jap. Bot. **34**: 73 (1959): ibid. **37**: 219 (1962).

□Burbidge, N. T. **Dictionary of Australian Plant Genera** pp. 345 Angus Rebertson, Sydney (1963) 濠州のフロラは存外早くから出たが, (Bentham, G & Muelles. F. *Flora Australiensis* **1-7** (1863-1878) もう 100 年近く経ってひどく古くなった。しかし急に新訂されたものも出る見込みがないので, 属だけでも新しくしたいという意図で出されたもの, 裸子, 被子の新旧すべて関係あるものは自生はもちろん帰化や普通の栽培までこめて属名をひろい ABC に排列し, 各々に出典の外に分布や種類数や必要な事項を添えてある。著者が 1960 年にのべた濠州のフロラ区分(北部の熱帯区, 南部の温帯区及び中央砂漠地の Eremean Zone) や第一と第二との重なり合った東海部の Mac Pherson-Macleay Overlap などの外にさらに地方区にわけた地図があり, それに沿って分布が評記されている。値段は 105 シリングで頁数の割には高いが価値は充分である。(前川文夫)